

定例教育委員会【議事録】

日 時 令和5年9月7日(木)
13時30分～

場 所 美術考古館3階多目的スペース
署名委員 高木教育委員、林教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 「これからの学校教育、先生方に期待すること」(岡谷市教職員研修会講演記録より)
【資料 No.1】(学びの創生・連携支援室)
2. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランの進捗について
【資料 No.2】(教育総務課)

○ 報 告

1. 岡谷市民ニューススポーツフェスティバルについて 【資料 No.3】 (スポーツ振興課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

【次回開催予定】10月6日(金)9時30分～ 岡谷市役所6階 605会議室

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
川岸学園設立準備室川岸学園設立準備主幹 新村 尚志、教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和5年9月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は高木委員、林教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： はじめに私から報告をいたします。

今朝から急に気温が下がりました。夏の花もそろそろ終わりを迎える時期になってまいりました。

明日は白露です。草花に朝露が付き白く輝いて見える、秋の訪れを表す言葉です。虫の音もよく聞こえます。いよいよ秋近し、と感じています。

教育総務課より、子どもたちの姿から報告をします。先日広島平和体験研修の解団式がございました。一人ひとりの報告から、想像以上に心の高まりが見えて、私は感動しました。目を背けたくなるような悲惨な広島史料を目にした子どもたちの感想を報告します。

「感情を越えると心が無になる。」

「瀕死の友を、手製の担架に乗せて病院へ向かった際、周りは黒焦げの死体だらけだったが、友人を助けたい思いが心を支えていた。被爆者の講話で心に残ったお話です。」

「惨劇は過去のものではなく未来につなげるもの。」

「テレビで長崎の平和祈念式典を見た。体が自然と動いて周囲に原爆の悲惨さについて伝えたい自分がいた。」

市の事業として広島平和体験研修を実施しましたが、本当に大切な事業だと感じました。

夏休みにはわくわくサマースクールもありました。学童workwork体験事業に参加した中学生の感想を紹介します。

「最初は楽しく遊べるかドキドキしていましたが、学童の子から「遊ぼう」と誘ってくれて嬉しかったです。6年間お世話になった学童に少し恩返しことができました。先生方、色々教えてくださりありがとうございました。楽しかったです。」

子どもたちにとって、ひとつひとつが大切な体験になっていると感じました。

8月19日、20日には校長会にて、大田市義務教育学校先進校である、美麻小中学校と八坂小中学校の2校を視察しました。

八坂小中学校が目指す姿は「自分が好きと言える子ども」で、全校67名、1年生は8名の学校です。入学式では、入学する児童のイラストを校庭に描いてお迎えするようです。一人ひとりを大切に作る姿が素晴らしい

宮坂教育長： と感じました。

美麻小中学校では「自律した学習者」の育成を教育目標としている全校99名の学校で、当日、学校運営協議会を行っていましたが、地域の方と先生方が目を輝かせて話し合っており、多くを学ばせていただきました。

生涯学習課より報告します。先ほど神田さおりさんと天王垣外遺跡の勾玉、管玉の特別企画展をご覧いただきました。実は私、大学時代に考古学サークルに所属していました。県内数十か所で発掘調査等を行いました。悠久の時を経て美しい色になった勾玉や管玉をみて、岡谷が大切な土地であったのだと感じました。8月20日には神田さおりさんが岡谷シルクの純白のヴェールに絵を描く公開制作が岡谷美術考古館にて行われ、完成品が9月30日まで岡谷蚕糸博物館にて展示されます。

次にスポーツ振興課につきまして、7月に神戸市にて開催された「全日本卓球選手権大会」小学校4年生以下男子シングルにおいて、長地小学校4年生の重田柊介選手が準優勝の好成績を収めました。大会では予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントでは決勝戦まで勝ち上がり、惜しくもセットカウント2-3で優勝は逃しましたが、全国2位という大変すばらしい成績です。これからもますますのご活躍を祈念しています。

次に約2年半にわたり市民総合体育館柔剣道場で行われてきた、新型コロナウイルスワクチン接種が8月末をもって終了しました。各団体の皆様には長い期間大変ご不便をお掛けしました。今月から柔剣道場を開放しますのでより一層のスポーツ活動の活発化に期待します。

それでは本日の議題に入りたいと思います。

議題1「これからの学校教育、先生方に期待すること」について事務局より説明をお願いいたします。

○議 題

1. これからの学校教育、先生方に期待すること

<資料1に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございました。今の内容に直接関係していなくても良いので、教育員の皆様からご意見をいただけたら幸いです。

太田教育長職務代理者： 先生方がこれから力をつける一つ的手段として、授業研究の充実があります。特定の学校の、特定の授業を大勢の先生方と一緒に見学したことはありますが、私が参加した授業以外にも岡谷市では授業研究を実施されているのでしょうか。

事務局（濱）： 岡谷市内でも広く他校に向けて、授業研究を行っている学校がありま

事務局（瀨）： す。教育課程研究協議会にて、授業研究会を開く学校もあります。日常的に自分たちの授業力を向上させるため、例えば1人1公開という形で、校内の先生方に向けた授業公開をして、意見の交換を行う取り組みを各学校で行ったり、他にも学年や担当教科ごとに先生方が集まって授業を見合うなど、授業力向上に向けた取り組みは日常的に行われています。

太田教育長職務代理者： 高い頻度で行われていることが分かりました。「授業研究の業務化、形骸化、非日常化」というのは、業務化、形骸化せずに、それ以上の取り組みを目指すという意味だと思いますが、非日常化とはどのようなケースなのでしょう。

事務局（瀨）： 例えば授業研究会を開く際、以前は10ページ以上ある指導案を作ってから授業公開をするケースが多数ありました。教育課程研究協議会のような毎年行っている指定研究でも同様に行われており、授業研究のための授業になってしまう事が、授業研究の非日常化です。現在は指導案を1ページにまとめ、日常の授業を公開しています。授業研究のための授業ではなく、日常の授業に生きる研究を実施しています。

高木教育委員： 難しい講演の中でも、先生方が何か掴んで、明日に繋がるものがあったなら、とても良かったと思います。

最後の「先生方へのエール」の部分で、具体的な目標ができた先生方も多いと思います。私も同僚性を高めることが大切だと改めて感じました。日々の学校生活の中で、先生同士でお互いに意見を出し合いながら、1つずつ自分のできることから実施していくことが大切だと感じました。

藤森教育委員： OECD Education2030という言葉が出てきているので、これからの教育の概念にも国際的な部分が含まれるのだと思いますが、日本の伝統的な文化に基づく教育も大切にしてほしいと思います。

資料の中で、特に興味深かった部分が「教師の学びと専門職の資本」です。人的資本、社会関係資本、意思決定資本の3つがありますが、社会関係資本は、特に重要になる部分だと思います。私なりの理解ですが、教育現場だけでなく地域内外の方々との交わりで、教師としてのスキルも高まると思うので、広く社会と関わる機会を持つことは、先生にとって有用なことだと思います。

林教育委員： 資料の最後にある「先生方へのエール」を読んで感じたことは、私のような民間企業の間人と、先生方は似ている部分も多いということです。私が社員さんをお願いしていることと似ています。先生方だと、「先生方へのエール」に載っている内容を1つずつ確認して、子どもに対して還元をしていきますが、民間企業なら商品力やサービスの向上をして、お客様に

林教育委員： 還元をしています。私が社員さんに言っていることの中に「何か1つ行動に移そう」があります。先生方の日常は忙しいと思いますが、今回の講演で学んだことを1つひとつ確認して、子どもたちに対して還元できるような体制作りができれば良いと思います。

小平教育委員： 先生方の授業も何回か拝見しています。子どもたちの反応や、その後の対応について本当によく考えてもらっていることを知っています。今回の資料を読んでいく中で目に留まったのは、教師がトランスフォームする必要があるという部分です。教育に限った話では無いのですが、常に自分の常識を疑うこともときには必要です。新しい取り組みを始めるときには勇気がいりますし、失敗も怖いとは思いますが、子どもたちはまだ社会に出る前で、失敗もまだ許される部分もあると思います。子どもたちと一緒に挑戦をして、先生方も評価主義だけではない環境になれば良いと思います。

宮坂教育長： 私と近い世代の先生方は本当に大変だと思います。長い教員生活で培ってきたスキルがあるのですが、「令和型の学び」では少し異なっている部分もあります。例えば算数の授業では、私が授業をしていたころは最後に答えが出てきます。現在は授業によっては最初に答えが出てきて、答えにたどりつくまでの様々なプロセスに重きを置く授業の進め方もあります。20年、30年の経験がある先生が、授業の進め方を変えていくことは難しいとは思いますが、今回の研修を通して「子どもと一緒に変わっていく」と思ってくれる先生方が多くいることはありがたいです。

初めて木村先生に講演をお願いしましたが、目から鱗の話がたくさんありました。岡谷市でも学力向上専門官や学力向上アドバイザーが、先生方の悩みを共有しながら解決に向けた取り組みを進めています。授業研究等について、これからも大切にしたいと思いました。

それでは議題1につきましては以上とさせていただきます。続いて議題2に進みます。

2. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランの進捗について

<資料2に基づき、事務局より説明>

太田教育長職務代理者： 目標指標のKPIがありますが、全国学力・学習状況調査の回答だと、それぞれの年で学年が固定されるので、前の年と比べる意味が薄れてしまうことに対する改善ができれば良いと思います。

また、岡谷の教育で良いと思っていることに、重点項目3「長期欠席問題の対応」「課題の早期発見・早期対応への取り組み」「困難な悩みを抱

太田教育長職務代理人： える児童生徒への対応」等がございます。これらの施策については、岡谷市はとても注力をしていると感じています。議会でもよく質問に挙がりますので、市民からの関心も高いジャンルだと思います。教育委員会の中で報告を頂く機会も多いので、具体的な取り組みについて数値にするのは難しい部分もあるとは思いますが、このプランにも明示されるようになれば良いと思いました。

もう1点気になったところが、小学校から中学校に進学した際に、数値が下がる項目があり、理解ができる項目もあるのですが、例えば指標の項目「家で自分で計画を立てて勉強をしていると答える児童生徒の割合」が、小学校では82.4%で中学校では49.2%となっている部分についても不思議に思いますし、「読書が好きと答える児童の割合」についても少し下がっております。これらはどのように捉えればいいのでしょうか

事務局（両角）： まず目標の設定の方法について、従来は地域行政がどれだけ取り組んだかのノルマを設定することが多かったです。例えば、生徒数などの直接的な数値を目標にすることが、ひと昔前にはありました。現在は施策を実施したことによる成果を指標化しております。掲げている施策がダイレクトに目標値に影響を与えるものではない施策が多いです。例えば学力向上を目標としたときに、学力向上アドバイザーが学校に行った回数を見ても、それは結果ではないためKPIには設定しにくいです。直接的ではないけれども成果を見せていくことが、求められている目標値のあり方です。行政が作る総合計画も同じ考えです。そのため最終年度だけで数値を切り取るのではなく、進捗を見ていただき、直近3年間はコロナがあったことも踏まえると一定の成果があったと教育委員会では受け止めております。

太田教育長職務代理人： 確かにそのような考えもあると思いますが、せっかく一生懸命やっている結果が資料として出てこないこともあると思います。KPIにするのが難しい数値も上手に載せることができれば良いと思いました。

事務局（両角）： 本日お配りした資料には数字しか載っていませんが、この5年間の取り組みを今度は文面化をし、現状や課題を明らかにして次の計画に移行する予定です。

藤森教育委員： 今回は数字で表された結果の資料になりますので、そこから読み取れる背景や原因をよく分析していただいて、プランに生かしていただければと思います。例えば重点項目2の「地域に根ざしたふるさと学習の推進」を見てみますと、コロナの影響か、若干低めの数字が出ております。これらもしっかり分析をして欲しいと思います。

以前、このプランを見た時に質問すれば良かったのですが、重点項目4

藤森教育委員： 「笑顔で安心して学べる教育環境の整備」につきまして、指標にボランティアの登録数がありますが、結果にどのように結びつくのでしょうか。

事務局（両角）： 主に小学校の話になりますが、見守り隊としてボランティアに参画されている方々の数です。日々の通学路の安全を守っていただいている方々の人数を指標にしております。そのため、児童生徒がボランティアを行った数ではないです。

宮坂教育長： 平成18年度からスタートしておりますが、ボランティアの方々も高齢化が進んでおり、年々人数が減りつつあります。

林教育委員： 指標の項目につきまして、もう少し細分化しても良いと思いましたが。それらも含めながら次の指標の項目を検討していただきたいです。

事務局（両角）： 今年が見直しの年ですので、事務局でも手を入れさせていただく予定で

高木教育委員： 指標の項目「将来の夢や希望を持っていると答える児童生徒の割合」につきまして、中学生になると数値が下がっているのは何故なのか気になるので、より細分化、もしくは別の表記にすることで原因が分かるかもしれません。

資料を見させてもらって、良いと思ったのは「人の役に立つ人間になりたいと思うと答える児童生徒の割合」が年を追うごとに増えていてほぼ100%になっていることは本当に素晴らしいことだと思います。児童生徒の良い部分をより伸ばすことができるような施策ができれば良いと思いました。

小平教育委員： 「将来の夢や希望を持っていると答える児童生徒の割合」につきまして、小学生の数値が高くなり、中学生の数値が下がっていることについても原因が気になります。例えばキャリア教育の推進で、各小学校に地元企業の方々がお話をしてくれる取り組みも数年前に始まりましたが、その結果現実的なイメージができたことが小学生の数値が上がっている原因の1つかもしれませんし、中学生になると思春期に入って落ち込むことも数値が下がっている原因の1つかもしれません。原因の分析ができるようになれば、より良いと思いました。

ですが結果自体は素晴らしいと思っています。「自分によいところがあると答える児童生徒の割合」も高まっていますし、最近の自己肯定感を高める取り組みの成果が出ているのだと思います。

宮坂教育長： 今年度は推進プランの策定年度ということで、国や県全体の方向性を踏まえながら、岡谷市の実情に即した計画を策定します。

計画の策定については、教育委員の皆様にもご協力いただきながら、一

宮坂教育長： 緒に考えて参りますので、岡谷の子どもたちがより豊かに、そして笑顔あふれる子どもたちになりますように、よろしく申し上げます。
それでは議題2につきまして、以上とさせていただきます。続いて報告事項に入ります。

○報告事項

1. 岡谷市民ニュースポーツフェスティバルについて

<資料3に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございました。
それでは次に「その他」につきまして、事務局より申し上げます。

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。
その他連絡事項等ありますでしょうか。
今までのところで何かご意見等はございますか。
本日本日予定しました議題は以上ですが、全体を通して何か質問等ございますか。
教育委員さんから何か報告事項等ございますか。
それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
10月6日（金）9：30～ 岡谷市役所6階 605会議室を予定しています。
よろしく申し上げます。

15時59分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和5年10月6日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

林 暎太郎

署 名 委 員

高木千奈美

調 製 職 員

白上 淳